

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	理学療法学分野
学籍番号	16S3010	院生氏名	遠藤佳章
通学キャンパス	大田原キャンパス		
論文題目	超音波画像診断装置を用いた 入院高齢男性における基本動作能力自立度別体幹筋厚		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文の内容と概略</p> <p>本研究は、入院高齢男性における基本動作能力自立度別の複数の体幹筋厚の役割を明らかにし、理学療法の臨床に資することを目的としている。まず、最初の研究で健常若年男性26名(22.2±1.6歳)を対象とし、超音波画像診断装置を用いて臥位、座位、立位の体幹筋(腰部多裂筋、脊柱起立筋、腹横筋、内腹斜筋、外腹斜筋)の筋厚を測定し、級内相関係数(ICC)による信頼性の検証を行った。結果、測定方法は十分高い信頼性が得られ(ICC=0.79~0.98)、姿勢による体幹筋厚の相違が見られた。次の研究では、健常高齢男性30名(70.7±4.8歳)を対象に姿勢別の体幹筋厚を求めた。姿勢による筋厚の変化率については若年者と異なる結果が得られ、特に座位と立位では加齢によって筋の使い方が違う可能性が示唆された。</p> <p>この2つの研究の結果を受けて、より臨床応用につなげるために、一般病院に入院中の高齢男性42名(81.9±8.8歳)を対象に基本動作自立度(臥位自立群、座位自立群、立位自立群)による臥位での体幹筋厚の比較を行った。分散分析の結果、自立度による筋厚の違いが見られたのは、腰部多裂筋、脊柱起立筋で、より高い自立度の群が有意に大きな筋厚を示した。</p> <p>本研究は国際医療福祉大学研究倫理審査委員会(16-I0-77, 17-I0-101)、国際医療福祉大学病院研究倫理審査委員会の承認(13-B-262)を得て行われており、その結果は基本動作自立度に応じた体幹筋のトレーニング方法を確立するための基礎データであり、理学療法の新しい治療指針に資する有益な研究としてその新規性を高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>平成30年12月14日、1回目の審査を行った。この中では超音波画像診断装置による筋厚測定の妥当性、左右差の検討について質問がなされたが、適切な回答が得られた。この審査での指摘事項についてのより詳細な回答と、それに基づいて修正を行った論文が12月19日に提出された。口頭試問においても適切な応答がなされており、修正論文の内容から審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	谷 浩明	
	副査	丸山 仁司	
	副査	北島 栄二	